

実践報告 (Report)

ミュージカル「ぼくはアヒル」の制作と上演

Production and presentation of the
musical, 'I am a duck'

渡邊康・杜川リントロウ
Koh Watanabe* Rintaro Morikawa**

1. はじめに

ケース・メソッドⅠの科目開設において、保育園、幼稚園、小学校の音楽会、学芸会、学習発表会などで生徒が演じ、歌うことできるミュージカルを制作し上演することを企画した。将来、保育士や教員として教育活動するにあたって、あらかじめ、この実践的経験を積むことが必要とされるからである。

ミュージカルは演劇と音楽による総合的な舞台芸術である。上演台本、作曲作品をそろえ、総合的な演出のもと、衣装、照明、舞台道具などの企画と制作を行い、そして練習計画を作成し練習する。歌唱、伴奏、振り付け、演技など構成要素は多い。学校で上演する場合は、時間的制限、音楽室や体育館、講堂など既存の施設を利用するために舞台設置には特徴的な条件があり、設置するための問題認識と知識の習得が必要である。

2. 準備

今回は開講初年であり、上演時期や場所をあらかじめ設定することが不可能であったため、台本確定、上演場所と日程の決定が5月中旬になり上演までの時間がかかなり限られた。そのために台本、音楽、装置・衣装の制作、演出、練習計画は教員及び俳優・演出家（杜川リントロウ氏）が担当した。

渡邊は平成11年12月12日、劇団「ほほえみ」第6回定期公演（大口町民会館大ホール）における田中寛次脚本、田中美代子演出のオリジナルミュージカルで作曲を担当。上演時間約1時間30分のうち音楽部分約1時間を作曲。MIDIによるサウンドトラック制作した。その後平成13年3月25日、第10回春日井児童合唱団定期演奏会（春日井市民会館）にて新たに「ぼくはアヒル・ピアノ伴奏・合唱曲版」を制作し発表した。

これらのオリジナル版は上演時間が約90分と長く、保育初等教育の現場で採用するには困難である。そのためには20分が適切な長さとして設定して、上演台本の再構成を俳優・演出家の杜川リントロウ氏に制作依頼した。また全体の演出を杜川氏に依頼

* 椋山女学園大学教育学部

** 俳優・演出家

した。オリジナル台本の大幅な削除、全20曲を10曲とし、楽曲の構成を長さでテキストの面（1番のみにする、合唱を斉唱とするなど）で縮小した。

制作に当たっての演出は杜川氏が中心となり、歌唱指導、舞台監督、舞台設置、音響、プロデュース全般を渡邊が担当した。キャスト決定や歌唱・演技練習では昼放課、空きの授業時間、授業前の早朝などの多くの時間で学生自らの活動が行われた。伴奏のピアノ演奏も4人が交代で担当した。

上演は2011年7月15日 相山女学園大学附属小学校 2011年7月22日 相山女学園大学教育学部A-401音楽室の2回公演を行った。

3. 課題

(1) 舞台装置、衣装の制作を外部の専門家に依頼・制作したが、学生の企画と制作で行いたい。(2) この点で他学部との連携も模索する。(3) 機材の運搬、設置を学生で役割を決定して実施したい。(4) ピアノ伴奏だけでなく、管楽器や弦楽器の演奏も可能であるのでアンサンブルとして採り入れ、演奏の幅を持たせ表現力を上げることを目指す。(5) 発表の場を広げる。(6) 幼稚園児・保育園児、小学生の参加の可能性を探りたい。

4. 「ぼくはアヒル」 台本と楽譜 記録写真

写真は附属小学校公演のものである。楽譜はピアノ伴奏を省き、途中までとした。

作曲 渡邊 康

脚本原作 台本・作詞 田中寛次 劇団ほほえみ／春日井児童合唱団
相山女学園大学ケースメソッド用台本 杜川リントロウ

<登場人物>

ダグ(アヒルの子)	小澤柚紀
お母さん白鳥	小林千紘
子白鳥1	海老春菜
子白鳥2	加藤真理子
子白鳥3	清水美帆
子白鳥4	成田春香
ヘビ1	芝田育代
ヘビ2	佐野綾香
ガチョウ	壁谷慶子
フクロウ	中尾早希

鶴1 真弓紗庸子
 鶴2 河内麻希
 ナレーション 櫻井恵理奈

その他、合唱は全員で。

ピアノ伴奏 佐野綾香 芝田育代 中尾早希 三宅奏江

☆ピアノは不滅で手元明かりあり

開演。

暗転

暗転したら M1 オープニングが流れる。

歌の始まりまでに指定の立ち位置に着き、歌う。

歌の直前で照明 地明かり +バックサス 白ありかは現場で判断

M1 オープニング (合唱)

みあ げれ ば the blue sky ゆめ を え が く まん げ き よ う さ
 あ か あ お きい る ひ か り の か け ら が す ぎ
 さ っ た と き を こ え て や っ て く る



見上げれば the blue sky
 夢を描く万華鏡さ
 赤 青 黄色
 光のかけらが過ぎ去った時を超えてやってくる

+照明青

みせてくれ
 昔鳥たちが広い大空を駆け巡った力強い姿を

+ 照明緑

みせてくれ

昔鳥たちが広い大空を駆け巡った力強い姿を

+ 照明赤

high high up in the sky

jump jump jump jump in the sky

見せてくれ その姿を

+ 照明オレンジ (赤緑白)

high high up in the sky

jump jump jump jump in the sky

駆け巡れ 大空へ

歌ったら、一人を残して去る。

照明 地明かりのみに戻す (バックサスOUT)

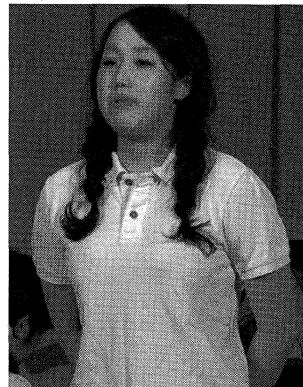
その一人によるナレーション。

ナレ「ここはシベリアのツンドラ地帯。

池のほとりに、白鳥の巣があります。

巣には・・・(覗く) たまごがいっぱい!

(周りを見ながら) でも、近くにお母さん白鳥はいないようです…



へビ「どけどけーい! へっへっへ、今日はごちそうだぞ〜

M2 へビが流れる。

照明 赤がメイン 白あり

M2 へビ (ソロ)



おいらはへビ トカゲじゃないぜ 「トカゲじゃないぜ」

おいらの自慢はこの口さ
食らいついたら離さない
どんな獲物もいちころさ
イエイエイエ イエイ！
イエイエイエ イエイ！



そのまま後奏が流れる。

ヘビ「へっへっへ、今日のごちそうだぜ。

こんな卵が手に入るとはなあ。

なんの卵か知らねえが、ほんと、うまそう…

よーし！ ほんじゃま、い た だ き ま…

白鳥の巣の中に落としてしまう。

照明地明かりのみに戻す

ヘビ「あー！しまったー！

ってここ、卵がいっぱい！？

そうか、ここは、白鳥の巣だ…。



そこにやってくるお母さん白鳥。

音楽、母の台詞で終わり。

母 「こらっ！ 何してんのっ！

ヘビ「ひゃっ！

母 「ヘビが私の巣になんの用？

…ははーん、大事な卵を盗んで食べちゃうつもりね？ そうはさせないわよ！

ヘビ「あ、いや、おいらうっかり手を滑らせちゃって。

おいらの食べようとした卵を、お宅の巣の中へぼとりと…

母 「だまらっしゃい！

誰か、誰か来て！ 泥棒よ！（大声で。ヘビ、慌てる）

このにくったらしいヘビが、私の大事な卵を食べようとしてるのよー！

誰かー！ 泥棒ー！

ヘビ「えーい、ちくしょう！

ヘビ、去る。

母 「ふう…

まったく、油断も隙もありゃしないわ。
ごめんね、私の大事な赤ちゃん。
もう絶対に離れないから。

照明 青メイン 地明かりハーフ + センター照明

M3 生まれておいでが流れる。

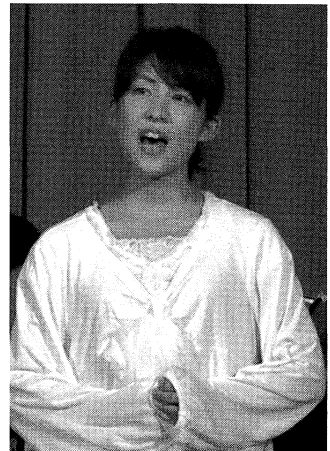
M3 生まれておいで (ソロ)

なにもかも あたたかい かぜのそよぎにあわせて
5 きぎはざわめく なにもかも うつくしい よぞらにまたたく
10 ほしも うたをうたうよ ときどきのあめさえも
15 ときどきの かぜさえも いまのわたしには うつくしい あなたをまっ
20 て いる から

何もかも暖かい
風のそよぎにあわせて木々はざわめく
何もかも美しい
夜空にまたたく星も歌うのよ

照明 LEDオーロラ 白+ブルー

時々の雨さえも 時々の風さえも
今の私には美しい
あなたを待っているから
Babies Oh Babies
早く 早く生まれておいで
Babies Oh Babies
早く 生まれておいで



照明 地明かりに戻す

子白「ぐぐぐぐ… むむむむ… うううう…

(キャラによって声を変えても良い)

母 「えっ! (たまごに耳をあてる)

…生まれる… ついに生まれるわ!

子どもたち、生まれてくる。

M4 どきどきわくわくが流れる。

照明 バックオーロラ 白あり

歌から赤とか青とか緑とか 適当にチェンジ

M4 どきどきわくわく (子白鳥たち)

Musical score for 'どきどきわくわく (子白鳥たち)'. It consists of three staves of music in 4/4 time. The lyrics are: やって来たそこーのときが ぼくらのじだが やって来た さあ とびだーそう なんでもかんでも まかせておくれよー からのなかーの ぼくらじゃないぜ



ババババ ババババ

ババババ ババババ

ババババ ババババ バンバキューン!

やって来たぞこの時が イエイ

僕らの時代がやって来た ヤー

さあ飛び出そう

なんでもかんでも任せておくれよ

殻の中のぼくらじゃないぜ ヤー

ドキドキドキドキ ドキドキドキドキ

ワクワクワクワク ドキキャン

何かが僕らを待っている イエイ

どんな世界が待っている ヤー

うれしいこと こわいこと
悲しいこと 任せておくれよ
ウズウズするぜ がまんできないヤー
ドキドキドキドキ ドキドキドキドキ
ワクワクワクワク ドキーン

照明 地明かりのみに戻す

母 「やっと生まれてきたわ〜！
おめでとう、私の赤ちゃんたち！

子1 「生まれてきたぞ！
子2 「広いー！
子3 「まぶしい！
子4 「風が吹いてる！気持ちい〜い。
ダグ 「……！ ……！（驚いてキョロキョロしている）
子1 「…なんだ、こいつ？
子2 「一人だけ私たちと違うよ。
子3 「身体の色が違うし、チビだし。
子4 「変なの！

母 「ちょっとちょっとお前たち。
生まれてすぐになに喧嘩してるんだい。
みんな可愛い私の子どもじゃないか。兄弟なんだよ。

子1 「きょうだい？
母 「そうさ、兄弟さ。
同じ子供でも、大きいのも小さいのも、細いのも太いのいろいろいるんだよ。
でも、みんなちがってみんないい。違って当たり前なんだよ。

子2 「違ってるけど、みんな兄弟なんだね。
母 「ああそうだよ。さてと、それじゃあお前たち、名前を考えないと。
子3 「名前？
母 「そう、名前。この世で生きていくにはね、名前がいるんだよ。
さあお前たち、名前を決めるんだ。

子達 「名前か… よーし！

M5 名前 (子白鳥たち)



照明 緑メイン 白あり

子1 俺の名前はダン (ダン?)
 身体も心も強くなるぞ
 ダン ダン ダン ダン ダン ダン

照明 オレンジメイン 白あり

子2 私の名前は キララ (キララ?)
 キラキラ輝くダイヤモンド
 キララ キララ キララ キララ



照明 紫メイン 白あり

子3 僕は僕は チャピ (チャピ?)
 沢山たべるぞハンバーグ
 チャピ チャピ チャピ チャピ

照明 ピンクメイン 白あり

子4 私の名前は ウララ (ウララ?)
 春風吹けば 踊りだすわ
 ウララ ウララ ウララ ウララ

照明 戻す

ダグ 「ほ、僕は、僕は…
 僕は、どうしよう?? (歌おうとして歌えない)
 母 「あらら。確かにお前は少しだけ違うようだね。
 でも大丈夫、お母さんが考えてあげよう。
 …。よーし、お前は、ダグだ。
 子達 「(声をそろえて強調するように) ダグ?
 母 「そう、ダグ。かっこいいだろ?
 ダグ 「僕は、ダグ…
 子達 「よろしく、ダグ!
 ダグ 「うん、よろしく! ありがとう、母さん!
 母 「いいのよ。みんな母さんの子どもなんだから。
 さあみんな、ついておいで。飛び方を教えてあげるわ!

全員、いったん舞台から去る。

照明 暗転

M6 風が吹く

かぜがふく かぜがふく かぜがふく かぜがふく かぜがふく かぜがふく

かぜがふく かぜがふく みをきる - - - じふぶきが みじ

かい - なつに まくをおるす - -

(途中でのカットあり)

ゴー ヒュー

風が吹く 風が吹く
風が吹く 風が吹く
風が吹く 風が吹く
風が吹く 風が吹く
身を切る 地吹雪が
短い夏に 幕を下ろす
風が吹く 風が吹く
風が吹く 風が吹く
風が吹く 風が吹く
風が吹く 風が吹く
色あせた 大地に
冬の悪魔が やってくる
風が吹く 風が吹く
風が吹く 風が吹く
風が吹く 風が吹く
風が吹く 風が吹く…

照明 地明かりのみに戻す

白鳥の一家が現れる。

子達「さむい…

ダグ「みんなそんなに寒いのか？」

子達「うん。」

子1「ダグはやっぱり、俺たちとは何かが違うんだよなあ…

母「早く南の国へいなくなっちゃ。みんな凍えてしまう。

今日が最後の訓練だ。さあ、ダグ、もう一度。

ダグ「はい、お母さん！」

母 「1、2の、3！」

ダグ「(飛べない) 飛べないよう…。」

子2「さむいよー！」

子3「お母さん！ どうするの？」

子4「他の白鳥は、みんな南へ飛んで行ってしまったわ。」

母 「……………」

子1「ここに残るのか？」

母 「それは危険が多すぎる。」

子達「お母さん！」

母 「飛び立たなければ、今日。

…出発しよう！」

子2「駄目だよー！ダグはまだ飛べないんだよ！」

母 「冬のシベリアでは、白鳥は生きていけない。」

子3「嫌だ！ダグを置いていくななんて嫌だ！」

子4「飛べないなら、みんなで背負っていけばいいのよ。」

母 「そんなことできないよ？」

子1「やってみなけりゃわかんないさ！」

子2「そうだよ！」

母 「…わかったわ。やってみなさい。」



みんなでダグをかつぐが、崩れてしまう。

子3「もう一回！」

やっぱり飛ぶことはできない。

母 「…やっぱり駄目だね…、ダグ。(ダグを抱きしめる)」

沈黙。

鶯鳥「ありゃあ、あんた達まだいたのかい？」

早くいかないと凍えて死んでしまうよ！」

母 「ガチョウのおばさん。」

それはわかっているんですが、この子を置いていくわけには…

鶯鳥「明日は吹雪だ。今日を逃したら、南の国へ飛んでいくのは無理だよ。」

だいたい、この子が飛べるはずがない。」

この子は、白鳥じゃなくて、
アヒルの子だよ。

ダグ「…ほくはアヒル？」

母「アヒルの子ですって？」

鶯鳥「そうだよ。この太い足と厚い

羽根。間違いなくアヒルの子さ。

母「この子は私の子です！」

鶯鳥「そうかい。でも、飛べないことにはかわりはないね。

どうする？ ここでみんな凍えて死ぬか、他の子だけでも助けるか。

母「…！（寒くて震えている、他の子達を見る）

鶯鳥「大丈夫だよ。この子はちゃんと生きていける。アヒルなんだから。

さ、急がないと！

母「…ガチョウのおばさん。ダグ。春には必ず、帰ってくるからね…！」

（ダグを抱きしめる）



白鳥たち、去る。

子達「ダグ！ 待っててね！」

ダグ「待って！ おかあさん！ みんなー！」

照明 青のみ

BGN 冬のシベリア

照明 青メイン 白少しだけ

鶴が2羽現れ、

通りすがりにダグに絡んで行く。

鶴1「おいみろよ、あんなところにアヒルの子がいるぞ。

鶴2「ほんとだ、一羽だけ。どこか、人間の家から逃げ出したのかな。

鶴1「この寒い中、ご苦労なこった。

鶴2「おーい、そこのアヒルの子！ 早くあった

ーい人間の家に戻ったらどうだい？

ダグ「違うよ！ 僕はアヒルじゃなくて白鳥だよ！」

鶴1「何言ってるんだ、そんな不細工な白鳥がいる
もんかい。

鶴2「太ってるし、足も大きいし、どうみてもアヒルじゃないか。



ダグ「そんな… 僕は、僕は…

鶴 「じゃあな、みにくいアヒルの子！

はっはっはっはっは…

去る二羽。

ダグ「アヒルの子… やっぱ僕は、アヒルだったの…？

僕は、僕は… お母さん…！

ブリッジ終了。

フクロウ登場。

照明 地明かりに戻す

フク「ホウ～！

ダグ「わっ！

フク「道に迷ったのかい？

ダグ「誰？ どこにいるの？ …フクロウのお爺さん。

フク「こんなところで何をしているんだい、アヒルの子。

ダグ「僕はアヒルじゃないよ！ 僕は白鳥だ！ 今は飛べないけど…

フク「飛べないのに白鳥なのかね。

ダグ「…そうだよ。僕は飛べないんだ。飛べない白鳥なんだ…。

ねえお爺さん、やっぱり僕ってアヒルに見える？

だから、お母さんやみんなと同じように飛べなかったの？

僕が、僕がアヒル、だから、空を…（落ち込む）

フク「ホウ。何かわけがありそうだね。

いいだろう、わしがひとついい話を聞かせてやろう。

ダグ「いい話？

フク「(頷く)

照明 緑メイン 地明かりハーフ LEDオーロラ<緑 赤>

M7 フクロウの歌

かぜとくもをともだちに どこまでもどこまでもとんでゆくそれがとりといるものさ
 それがとりといるものさ

歌①

風と雲を友達に
どこまでもどこまでも飛んでゆく
それが鳥というものさ
それが鳥というものさ



曲続く中、台詞。

フク「ところが長い年月の間に、飛ぶことをやめた鳥たちもいたのさ。

ダグ「え？ それはどんな鳥なんですか？

フク「ニワトリ、ガチョウ、それにアヒルもさ。

ダグ「ええっ、アヒル！？ お爺さん、アヒルも昔、空を飛んでいたの！？」

フク「そうじゃ。白鳥と同じようにな。

でもある時からアヒルは、自分から飛ぶことをやめた。

人間から餌をもらう為にな。

ダグ「そんなあ。飛べた方がいいのに！

フク「そうじゃなあ。

でもその代りに餌と、そして強い足と寒さに負けない分厚い羽根を手に入れたぞ。

ダグ「強い足と分厚い羽根？

フク「そうじゃ。

歌②（合唱？）

強い足と 分厚い羽根
翼を捨てた引き換えに
飛べない代わりに 手に入れた
飛べない代わりに 手に入れた
大空を 大地に 変えて
どこまでも歩ける事を
選んだ鳥たちがいた
選んだ鳥たちがいた

フクロウの曲、終了。

照明 地明かりに戻す

フク「お前さんは飛べない自分が嫌いなようだが、
その代り、アヒルにはアヒルのいいところがある。

それをもっと認めてはどうかね？

ダグ「僕の、いいところ…

フク「それに、アヒルだって昔は空を飛んでいたんだ。

白鳥だろうがアヒルだろうが、

頑張ればまた空を飛べるかもしれないぞ。

ダグ「えっ…、頑張れば、飛べるかも…

フク「ま、飛ぼうと思ったアヒルは今までいないから、わからないがね。

ほっほっほっほ…（去る）

ダグ「あっ、フクロウのお爺さん！

…僕は、僕は…！

照明 青 +センター照明 <白なし> +新型機材ON <最初は波のみ>

M8 生きるんだ

ちい さなー たまごから うまれたー ちい さなー いのちだけど
 このひろ いちぎゅうに ただ ひとり だれにもかゐることは できないー
 ー いぎ るんだー いぎ るんだー いぎ るんだー

(ダグのソロ→合唱)

小さな卵から産まれた

小さな命だけど

この広い地球にただ一人

誰にも変わることはできない

生きるんだ 生きるんだ 生きるんだ

照明 新型フルON

小さな卵から産まれた

小さな命だけど

一つ一つが輝く命

宇宙より大きく重たい

生きるんだ 生きるんだ 生きるんだ

生きるんだ 生きるんだ 生きるんだ

ダグ「そうだ、僕は生きるんだ…！



照明 暗転

ブリッジ I N

ダグ、去る。

照明 地明かりに戻す

ナレ「そして、再び春がやってきました。

白鳥たちがやってくる。

子1「戻ってきたぞー！

子2「あたたかーい！

子3「懐かしい！

子4「半年ぶりね！

母「みんな、本当に飛ぶのが上手になったね。

身体も、もう私より大きいくらいだよ。

子1「さあ、ダグを探すぞ！

子2「うん！

子3「そのために早く戻ってきたんだから。

子4「一体どこにいるのかしら？

子達「ダグー！ どこにいるの、ダグー！

母「お前たち…、そうね、ダグは、きっと生きているわよね。

ダグー！ どこにいったんだい、ダグー！

そこにすごい勢いで走り込んでくるダグ。ピアノで表現。吹き飛ぶ白鳥たち。

子達「うわーっ！

子1「い、今の風は一体なんだ？？」

ダグ「お母さん！ …みんな！

白鳥「ダグ！！

母「元気だったのね！

ダグ「はい、お久しぶりです、お母さん。

子2「よかったー！

子3「元気でことは、飛べるようになったの？

ダグ「ううん。僕は飛べないよ。アヒルだもん。

母「ダグ？！



前奏をBGM VER.として、エンディングが入る

ダグ「そう、僕はアヒルさ。白鳥じゃない。

でも、アヒルだから足は速いし寒さに強い。

今の風にびっくりしたろ？ あれは僕が走って起こした風さ。

みんなと僕は確かに違う、でもいいところもいっぱいあるんだ。

子4「ダグったら…」

子1「でもダグ、お前がアヒルでもお前は俺たちの兄弟だぞ。

子2「そうだよ！

子3「そうだ！

母「いつまでもお前は私の大事な子どもなのよ。ダグ…！

ダグ「お母さん、みんな、ありがとう。

でも僕は、それでも飛ぶことを諦めたわけじゃないんだよ。

昔、アヒルも空を飛んでいたんだって。

だから練習すれば、いつかは、僕だって！

M9 エンディング

むかし どり たち は みんな そら を とん で い た の は
 ら を こ え て やま こ え て た か く た か く ど こ ま で も か ぜ
 と く も と を と も だ ち に みんな そら を とん で い た の は
 ら を こ え て やま こ え て た か く た か く ど こ ま で も た か く た か く た か
 く た か く と お く と お く と お く

むかし鳥たちは

みんな空を飛んでいた

野原を越えて山越えて

高く高くどこまでも

いつかお前も飛べるだろう

野原を越えて山越えて

高く高くいつまでも

思いのままに



照明 +センター +バックサスのみ

音楽続く中、飛ぼうとするダグ。

ダグ「いてっ！

子1 「やっぱりまだ駄目かあ。

子2 「でもみんなで助けてあげれば。

子3 「ようし！

ダグ「え？わっ（乗せられる）

照明 新型機材 青

子4 「どう？これで飛べるでしょう？

ダグ「みんな… これが、飛ぶって気持ち。

ああ、とっても気持ちいいよ！

母 「ダグ！みんな！ 大きくなったね…！

照明全体LEDフル

再び歌に。

いつかお前も飛べるだろう

自由自在に

いつかお前も飛べるだろう

必ず飛べる 必ず飛べる

照明 一瞬バックサス

照明 暗転

カーテンコールへ

2番のみ。



照明、ピアノの演奏が始まったら照明フルで

バックオーロラあり LEDオーロラあり

劇終。 見送り

